

## 巻頭言

わかやま子ども学総合研究センタージャーナル  
刊行によせて

和歌山信愛大学 学長  
森 田 登 志 子



新たな時代を迎えた令和元年、和歌山県と和歌山市の力強いお力添えと連携のもと発足いたしました和歌山信愛大学では、子どもたちが受け継いでいる地域を見据えた教育に取り組もうとするたくさんの若者たちの声が響きわたっております。この地域に育つ子どもたちと本学で学ぶ学生たちの未来を切り開いてくださいました地域社会のすべてのみなさまに心から感謝申し上げます。

さて、地域で育つ一人一人の子どもたちをこころから大切にする一助として、教育学・心理学・社会福祉学・小児科学等が相互に支え合い協働する「わかやま子ども学総合研究センター」を開設し、このたび「わかやま子ども学総合研究センタージャーナル」創刊の運びとなりました。このささやかな「わかやま子ども学総合研究センタージャーナル」が子どもたちのいのちにこころを寄せるすべての方々のもとにとどき、お一人お一人のかたわらにいらっしゃる未来ある小さないのちを豊かに、力強く開花させるお手伝いができますよう、これからもご指導、ご協力、どうぞよろしくお願い申し上げます。

和歌山信愛大学はショファイユの幼きイエズス修道会を設立母体としております。フランスから派遣された4名の修道女が当時わずかに海外に向けて開港されていた神戸に上陸いたしましたのは明治10年(1877年)のことでした。シスターたちがまだ旅装を解く間もない時、さまざまな困難の中にあつていのちの危機にある日本の子どもたちが続々と彼女たちに託されることになりました。この「いのちへの奉仕」、これこそが信愛教育の出発点でした。

その時から140年以上にわたって継続して参りました信愛の「いのちへの奉仕」がこの「わかやま子ども学総合研究センタージャーナル」を通して新たな時代に新たな形で未来をつくらうとする子どもたちのために、新たな働きができますよう心から祈っております。